

のぞいてみよう！ せんだいの歴史 ゆかりの絵画編

女性の憧れを描く―忠岡三千子―

仙台市博物館 学芸普及室長 水野 沙織

第6回

才色兼備の女性が主題

今回は江戸時代の女性が描いた作品を2点紹介します。

美しい衣をまとった女性が顔を上げて何かを見えています。その視線の先に描かれるのは、細い糸で下へと降りてくる一匹の蜘蛛。蜘蛛は待ち人が訪れる前兆とされ、女性はかすかに笑みを浮かべています。

この「衣通姫図」は、『日本書紀』にある允恭天皇の皇后・忍坂大中姫の妹の弟姫が詠んだ和歌「わが夫子が 来べき夕なり ささがねの 蜘蛛の行ひ 是夕著しも」を題材にした作品です。弟姫は衣を通して輝くほどの美しさから衣通姫と称された美人で、允恭天皇が妻の妹である彼女に一目ぼれしてしまうから大変です。この場面は皇后の嫉妬から逃れ別宅に一人暮らす衣通姫の姿なのです。絵に戻りましょう。目や唇の形、額や衣にかかる黒髪の線は一本ずつ丁寧に描かれています。また、重ねた衣の配色や文様も美しく、各所に見られる精緻な表現に作者のこだわりが見られます。

二つ目の「草子洗い小町図」は自分が詠んだ歌を盗作と疑われた小野小町が、

その歌が書き込まれた「万葉集」を洗って容疑を晴らしたという能の演目の題材にした作品です。こちらも着物の色目は鮮やかで美しく、手前の几帳と共に文様が繊細に施されています。

忠岡三千子の謎

作者の忠岡三千子は7代藩主伊達重村の正室近衛氏年子（観心院）の侍女として伊達家に入ったとされています。5代吉村の正室長松院、6代宗村の正室雲松院の肖像画も三千子の作品です。美術担当学芸員は「侍女の余技とは考えにくい画力の高さ」と評します。どこで絵を学んだのでしょうか？ 謎の多い三千子ですが、王朝文学や故事に由来する絵画から当世の風俗画まで、彩り豊かで緻密な筆遣いの作品が数多く残されています。



蜘蛛

衣通姫



左・右上：忠岡三千子筆「衣通姫図」、右下：忠岡三千子筆「草子洗い小町図」(部分) どちらも江戸時代後期、仙台市博物館蔵

衣通姫は和歌三神として玉津神社（和歌山市）に祭られ、小野小町は「いにしへの衣通姫の流れ」（『古今和歌集』）とされる六歌仙の1人です。2人とも教養のある美人として知られていました。これらの絵画は、おそらく仙台藩の江戸屋敷で制作され、藩主夫人をはじめ奥の女性の目に触れることもあったでしょう。三千子は教養が必要とされる女性たちの憧れを描いていたのかもしれませんが。

今回紹介した作品の画像は、仙台市博物館ホームページの「収蔵資料データベース」(二次元コード)からご覧いただけます。



刊行物のご紹介



「仙台市史」活用資料集vol.2～8

『仙台市史』の中から区ごとの歴史を取りあげ、コンパクトに紹介しています。仙台の歴史をさらに深く知るためのヒントが満載です。

- vol.2 若林区の歴史探し
- vol.3 泉区の歴史探し
- vol.4 宮城野区の歴史探し
- vol.5 太白区の歴史探し-西部-
- vol.6 太白区の歴史探し-東部-
- vol.7 青葉区の歴史探し-西部-
- vol.8 青葉区の歴史探し-東部-

各巻600円(税込) A4/オールカラー/16ページ(vol.8のみ24ページ)

お求めはこちら

仙台市博物館 ミュージアムショップ

【場 所】 仙台市博物館2階
【営業時間】 9:00～16:45
【電話番号】 022-226-8319

市政情報センター

【場 所】 仙台市役所2階
【開館時間】 9:00～17:00
(土・日・祝・毎月第4水曜日・年末年始(12/29~1/3)休)
【電話番号】 022-214-1239



購入方法などの最新情報は、博物館ホームページでご案内いたします

※「vol.1 授業で使える仙台の歴史余話」は完売しました。



【開館時間】9:00～16:45(入館は16:15まで)
【休 館 日】毎週月曜日(1/13は開館)、年末年始(12/28～1/4)、1/14
〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074

▶ 博物館ホームページ 仙台市博物館 検索
▶ 博物館X(旧ツイッター) @sendai_shihaku